

野田 九条通信

2007年7月号

No.20

「野田・九条の会」事務局

TEL 7122-0502

野田九条の会ホームページ
http://www17.ocn.ne.jp/~art.9/

野田・九条の会は6月9日に定例会を開き、8月の平和のための戦争展の進行状況の確認と、秋の講演会を伊藤真さんで11月23日に決定しました。また、5月27日に350人が集まって「千葉県九条の会」が発足し、野田からも5人が参加、情報を交換し運動を強めていくことが報告されました。

8/18、19 中央公民館で開催 平和のための戦争展

NO MORE WAR

8/18(土)、19(日)2日間、戦争の実態を知り、現在を考え、未来に向かって何ができるのか考える2日間にしたいと、実行委員会に参加の市民が張り切っています。展示が14企画、講演や映画、戦争の語りなどの催しが6企画出されています。それぞれの団体や個人で準備が進んでいます。

午後講演会は

イラクで人質となつたカメラマン 郡山総一郎さん

18日(土)午後の講演会は郡山総一郎さんに決定しました。イラクなど今起こっている戦争の現実、

被害などをお話していただき、その後私たちは何ができるのか一緒に考える時間を持ちたいと思います。

九条への想い

ここに二枚の茶色に変色した、よれよれの軍事葉書がある。一枚は幼い私宛のもの、もう一枚は私と兄弟連名のもの、カタカナ文字で書かれている。

父からの軍事手紙

田中陽子

ロハトテモアツイミナミノクニデス
ダレヲ見テモ黒イ人ダケ、手マネデ話シオシテ居マス

遠い南の島で現地の子どもを見て、我が子の姿を思い浮べていたのでしょうか。父の姿をしのび、この葉書を見ると、私も当時の幼児にもど

り、”あ、お父さん、お父さん”と胸の中で呼びかけてしまっています。

ミンナオトナシクベシキヨウシテ井マスカオ父サンノ居ルトコ

シカシ日本語ノワカル子供モズイブン多クナリ、日本ノウタヲウタツテ、アソンデイマス

(読者からの投稿を掲載しました。九条への想いをお寄せください。)

その他、戦争体験の語り、被爆者からの伝言、戦時下のメディア、野田と戦争の関わり、絵で見る戦争、世界の中に輝く憲法、お国言葉で憲法を、詩の朗読、みんなで歌いましょう、目で見ると戦争、などのパネル展示や催し物のほか、62年前の戦争時の国民服や被爆瓦などの貴重な物品も見ることが出来ます。8/18、19は今から予定を入れておいてください。

参加下さい

- ☆九条の会7月定例会 7/14(土)PM2時～ 樺のホール4階研修室
- ☆平和のための戦争展実行委員会 7/8(日)PM2時～ 中央公民館2階講座室
- ☆原水爆禁止野田 国民平和行進 7/16(海の日)
9時 いちいのホール、10時半 野田南部診療所～とんとんみずき橋
- ☆九条署名活動 7/9(月)野田市駅PM5時～6時、7/19(木)梅郷駅PM5時～6時

従軍慰安婦 決議 アメリカ下院で可決！

6月26日アメリカ下院外交委員会で「従軍慰安婦問題に関する決議」が可決された。日本の首相が公式に謝罪し声明を出すことや、事実がなかったという主張に明確に反論すべき、などという内容だ。これに対し安倍首相は「コメントするつもりはない」と語ったという。こんな政府には、国民が怒りをぶつけないといけない。

慰安婦決議

首相は深刻さを認識せよ

「日本政府は……歴史的な責任を公式に認め、謝罪し、受け入れるべきだ」

米下院の外交委員会が、旧日本軍の慰安婦問題についての決議案を可決した。39対2の圧倒的多数だった。7月にも本会議で採択される見通しだ。

日本が過去の過ちを反省していないと、米議会が国際社会の面前で糾弾している。その意味は重い。

私たちは、首相の靖国神社参拝や慰安婦など歴史認識がらみ問題に、政治家が正面から取り組むべきだと主張してきた。戦前の行動や価値観を正当化するような言動は、日本の国際的な信用にもかかわることだからだ。

それがこんな事態に立ち至ったことに、やりきれない思いである。日本がそんな国と見られているのかと思うと残念であり、恥ずかしい。

決議案に疑問がないわけではない。歴代首相が元慰安婦におわびの手紙を出してきたことが触れられていないし、軍の

関与を認めて政府として謝罪した河野談話の位置づけも不十分だ。

しかし、決議案にあるように、河野談話を批判したり、教科書の記述を改めたりする動きがあったのは事実だ。慰安婦の残酷さを非難する決議案のメッセージは、真摯に受け止める必要がある。

今回、決議案が採択の方向となったことについて、戦術的な失敗が指摘されている。今月、ワシントン・ポスト紙に決議案に反論する意見広告が掲載された。

それが、沈黙化していた問題に再び火をつけたという批判だ。

確かに、40人あまりの与野党の国会議員とともに、安倍首相のブレインの外交評論家まで名を連ね、決議案を「現実の意図的な歪曲」などと批判した全面広告は異様だった。4月の初訪米でおわびを述べた首相の言葉は台無しになったと言えるだろう。

だが、問題の本質は、自らの歴史の過ちにきちんと向き合えない日本の政治自体にある。

安倍首相は「米議会はたくさん人の決議がされている。そういう中の一つ」「コメントするつもりはない」と述べた。とんでもないことだ。日本に重大な疑念と非難が向けられているのである。

河野談話やアジア女性基金などの取り組みを説明し、改めて認識を語らねばならない。

首相は日米同盟の土台として「共通の価値観」を強調する。だが、決議案はその価値観にかかわる問題であることを、首相は分かっているのではないのか。

日本は戦後、自由と人権を重んじる民主主義国として再生し、侵略と植民地支配などの過去を深く反省した。「過去の反省」が揺らいでいる印象を与えれば、価値観への疑念を招く。

小泉首相の靖国参拝以来、日本の歴史への取り組みに対する国際社会の目は厳しい。日本の民主主義は大丈夫なのか。今回の決議案はその警告として受け止めるべきである。



6月14日付ワシントン・ポスト紙に掲載された「強制的証拠はない」などの「靖国派」の意見広告

↑この意見広告にも怒りが

意見広告に賛同した国会議員

- 衆議院
- 赤池誠章 (比例南関東)
- 稲田朋美 (福井1区)
- 江藤拓 (宮崎2区)
- 大塚高司 (大阪8区)
- 岡部英明 (比例北関東)
- 小川友一 (東京21区)
- 鎌田忠兵衛 (比例近畿)
- 亀岡偉民 (福島1区)
- 木原稔 (比例九州)
- 木挽司 (兵庫6区)
- 坂井学 (神奈川15区)
- 島村宣伸 (東京16区)
- 杉田元司 (比例東海)
- 鈴木馨祐 (比例南関東)
- 藤浦健太郎 (千葉5区)
- 平将明 (東京4区)
- 戸井田徹 (兵庫11区)
- 土井亨 (宮城1区)
- 土井真樹 (比例東海)
- 西本勝子 (比例四国)
- 西林潤 (神奈川14区)
- 古川禎久 (宮崎3区)
- 松本文明 (東京7区)
- 松本洋平 (東京19区)
- 武藤容治 (岐阜3区)
- 愛知和男 (比例東京)
- 山本朋広 (比例近畿)
- 渡部篤 (比例東北)
- 参議院
- 中川義雄 (北海道)
- 衆議院
- 松木謙公 (比例北海道)
- 笠浩史 (比例南関東)
- 牧義夫 (愛知4区)
- 吉田泉 (比例東北)
- 河村たかし (愛知1区)
- 石岡貴史 (比例北関東)
- 泉健太 (京都3区)
- 神風英男 (比例北関東)
- 田村謙治 (比例東海)
- 鷲尾英一郎 (比例北陸信越)
- 北神圭朗 (比例近畿)
- 松原仁 (比例東京)
- 参議院
- 松下新平 (宮崎)
- 衆議院
- 西村真悟 (比例近畿)
- 平沼赳夫 (岡山3区)

赤旗日曜版より



ホワイトハウス前で、訪米中の安倍首相に謝罪を求める元「慰安婦」の李さん（前列左から3人目）ら＝4月26日（鎌塚由美記者撮影）

朝日新聞 6/28 社説より